

# 私の時代

## 私の時代

野口忠志（'49年卒／B.S.S.O.）

社会に出て早いもので22年目を迎え、駿河台の師弟食堂の脇にあった部室にたむろしていた頃の自分を懐かしく思っているB.S.S.O.のOBであります。

今回の寄稿にあたり、先輩から「今も続けているおまえの道楽について記してみよ」との命令により、私の所属しているアマチュアバンド「マンテナイト・ジャズ・オーケストラ」について紹介させていただきます。昭和49年に就職したものの学生時代の栄光を忘れられず、同時代の学生バンド仲間と始めた「マンテナイト」も、今では知る人



マンテナイト・ジャズ・オーケストラ

は知る（知らない人は知らない）アマチュアバンドにまで成長し、敢あるアマチュアバンドを代表する名バンド？という名声を頂いています。毎週月曜日に練習をしていることから、このバンド名となったわけですが、メンバーの異動も比較的少なく、カウントベイシーを中心としたスウィングジャズを中心に演奏活動を続けています。

また、昨年、20周年を記念して発表したCD「モノコメント」もスウィングジャーナル誌をはじめ各方面から絶賛をいただいております。

終わりに、是非「マンテナイト」の演奏をお聴きいただければと思います、今年のスケジュールをお知らせします。

- 6月4日(日) 東京都アマチュアビッグバンド連盟コンサート(セシオン杉並)
- 7月9日(日) 全国アマチュアビッグバンド連盟七塔コンサート&シンポジウム(川崎市民プラザ)
- 11月3日(金) 国民文化祭出演(足利市)
- 11月25日(土) 第22回定期演奏会(新橋ヤクルトホール)

## B.S.S.O.の独立

安カ川大樹（'72年卒／B.S.S.O.）

私がB.S.S.O.に在籍していた当時B.S.S.O.は、大きな試練の時期だったと思います。慢性的な部員不足、活動資金の欠乏、練習場所も確保できず、それに加え学生課より体育館2Fの部屋を取り壊すので退去してほしいとの通告がありました。学生課の通告は、小川町分館の部屋に軽音楽部全部を移転するというものでした。しかし、一部屋に全部の楽器を収納することは不可能でした。平成元年度のバンドマスターであった私は、この危機的状況をB.S.S.O.の全部員として軽音楽部の幹事長と話し合い、ドリーマー、キーパーは小川町分館に、B.S.S.O.は軽音楽部から独立し新たな道を進んでいこう、という方向でまとまりました。独立には学生課と学生会両方の承認が必要でしたので部長先生には国際経

営論を教えていただいた根本孝先生に直談判してなつていただき、学生課に同好会として承認され、(翌平成2年クラブに昇格)学生会には文連総会で準加盟が承認されました。(翌平成2年加盟)平成二年三月には四年生が卒業したため部員は13名程となり、たいへん厳しい船出となりました。しかし新年生部員の頑張りもあり、全員一丸となつて猛



安カ川大樹氏現役時代（4年生）

練習をした結果、山野ビッグバンドコンテストでB.S.S.O.史上初めて最優秀賞を受賞することができました。その後のB.S.S.O.の隆盛には目をみはるものがあり、後輩の皆さんの努力の賜物だと思えます。

最後に独立するにあたってあまりにも早急にことを進めた為に、軽音楽部のOBの方々にも説明不足であったことをこの紙面をかりてお詫び申し上げます。

## 私の時代

大塚克人（'55年卒／M.C.）

ちょうど私が二年から三年になった頃だったと思います。それまで比較的に多かった部員が一入また一人と姿を見せなくなり始め、いつも練習に来るメンバーだけではバンドさえ組めない学年も出てきました。以前より学年単位でバンドを組むのはやめて方向性の合者同士でバンドをつくった方がよいということが話し合われていました。が、切迫した事

態の中で、自然とそういう雰囲気になつていったのです。そんな折に、外部との接触が多くなつてきたのも確かです。様々な大学のジャズ研の方々が、楽器をもつて練習や学祭に遊びに来てくれたり、こちらから押しかけたりと、色々な人と演奏する機会が多くなりました。このことは、自分の技術や感性を向上させる上でたいへん大きな役割を果たしてくれたように思います。

ほんの二年程前に卒業したばかりだというのに、こうして書き連ねていることが、とても懐かしく感じられます。

現在、日々の仕事に忙殺されている毎日ですが、楽器の鳴らし方を忘れないようにしたいものです。



メランコリーキャッツ

# 私の時代